



学校だより

校訓：豊かさ・確かさ・たくましさ

小田原市立橋中学校

令和7年11月11日発行 第8号

小田原市立橋中学校

校長 松澤 文恵

11月は別名「霜月」、その名の通り霜が降りる月。一気に秋が深まり、冬の訪れる気配です。

先月の学習発表会では、生徒の日々の学習の成果を多くの保護者・地域の方々にご覧いただくとともに、その頑張りを認め、励まし、支えていただきありがとうございます。

学校では、3年生は自分自身の進路を拓く努力を、1・2年生は3年生からバトンを受け取る準備をしています。

文化・芸術の秋 小田原市民ホール（三の丸ホール）にて

9月～10月は、小田原市民ホール（三の丸ホール）にて、様々な行事が行われました。本校からもたくさんの方が参加がありましたので紹介します。

○小田原市児童生徒科学展覧会

9月12日～15日に展示室で開催されました。

本校からは2名の作品が選ばれ、展示されました。

2年 中里 琉花 さん 銀賞

「堆肥と市販の肥料、肥料を使わない土の植物の成長の変化」

1年 大島 瑠菜 さん 銀賞

「暑い夏 何色の服を着るのが涼しいのか」

○English Contest 2025

10月4日（土）に小ホールで開催されました。

本校からはスピーチ部門に1名が出場、「My Favorite Person」の魅力を英語でスピーチしました。生き生きとした表情で、伝えようとする気持ちが前面に表れたとても素敵なスピーチでした。

3年 知場 悠莉 さん Good Speaker 賞

「My Favorite Person」

○小田原・足柄下地区中学校生徒美術展

10月17日～22日に展示室で開催されました。

本校からは2年生と3年生の美術科の授業で制作した作品43点が出品されました。



2年生：墨絵



3年生：自画像

○小田原・足柄下地区中学校音楽会

10月18日（土）に大ホールで開催されました。

本校からは有志合唱46名が参加し、「Hymn To Freedom（自由への賛歌）」を披露しました。この曲は、1962年に盛り上がりを見せたアメリカの公民権運動に精力的に動いていたキング牧師に触発されて、ジャズピアノの名手、オスカー・ピーターソンが書き下ろしたもので、当時の人種問題への疑問を投げかけると同時に、怒りではなく優しさでこの問題に向き合おうとした曲です。「あらゆる心と体を手をつなぎ自由のために声を上げれば、その時こそ、我々は自由になるだろう」

すべての人が自由であることを願い、心を込めて、すべて英語で歌いあげました。とても素敵でした。会場からもひととき大きな拍手をもらったように感じました。

1年生から3年生まで学年を超えた有志合唱隊が『歌の橋』のバトンをしっかり引き継いでくれました。



地道な努力が大切 「運鈍根」

10月上旬にノーベル賞の発表があり、2025年は2人の日本人が受賞しました。生理学・医学賞の坂口志文さんと化学賞の北川進さんです。

今回受賞した坂口さんと北川さんはともに74歳。年齢の他は、もちろん生まれや育ち、研究の内容も全く異なります。ところが、お二人の大切にしている言葉が実は同じ言葉なのです。それは「運鈍根」という言葉。坂口さんはインタビューで好きな言葉として挙げ、北川さんは学生によく使う言葉として挙げているそうです。

運鈍根とは、**物事を成功させるのに必要なのは、「幸運」「鈍重と言われるほどに辛抱強いこと」「根気」の三つだ**という意味です。粘り強く、あきらめず、コツコツとやってそこに幸運が舞い込めばうまくいくということです。お二人は研究成果が認められない苦難の時代が長くあったことを明かしています。それでも自分を信じてコツコツと研究を続けたことで、花開いたわけです。（11月1日朝日新聞）

お二人が「地道な努力」を同じように大切にされてきたということにとっても重みがあると思います。

